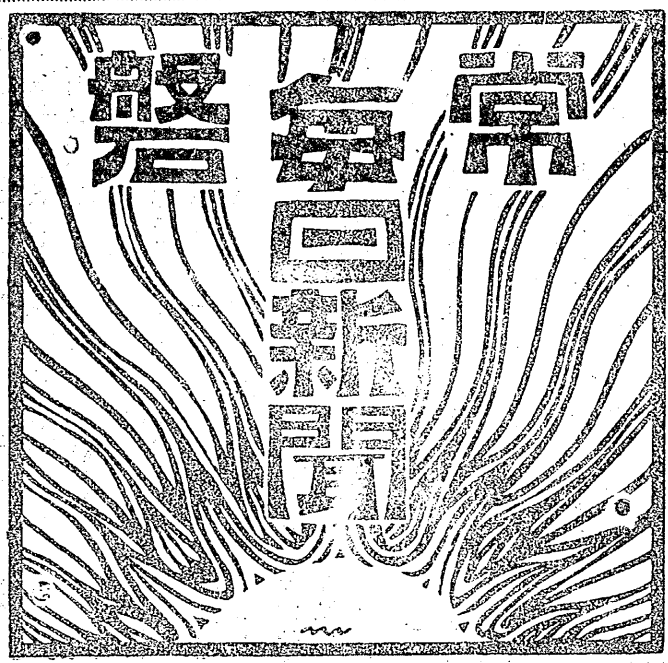


發行編輯人 川崎文治
印刷所 常磐新聞社
福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
電話 每日新聞社



定部金貳錢 廣五錢十二
一ヶ月廿錢 告字詰一行
郵税五厘 料五字一行
刊休日曜大祭
日祝日ノ登
印刷所 本社専屬 磐陽社
福島縣石城郡平町長橋町廿一

刊夕日一廿月一十

寄書
中山雅司
女性と愛
若し女性はとかく自らの包むべきものを誤ることがある、行く可らざる道に走ることがある、しかし弱き女性の胸に養はれた愛の力が、時としては此世の如何なる力を以てするも枉ぐ可らざる程力強いことがある。この爲めに沙漠のやうな人生にも、絢爛たる花が咲く幾多世間の複雑した事件は何れも背景に愛の姿の潜んで居ないものはない。然らば如何にして愛の泉を養ふべきか、如何にして

可憐なる眼を開くべきか、それは絶えずその源を密す事をせねばならない、強い理性の力にまたねばならない。高雅な趣味に生き優美な思想を養つて行かねばならぬ。先づ自己を愛し、その胸の厨子に貴重なる寶を納めねばならない、そして女性の名に對して恥かしからぬ誇りを有つて、適れ地上を彩る花とならねばならない。若しそれ女性がこれらの事に顔をそむけて、氣儘の眞似をするならば、其は實に女性の恥辱である。これは單に天の與ふるものを取らざるの、誹りを受けるのみでなく、自ら爲す

可きを爲さざる大なる怠慢と言ふべきであつて、一度逃げた機會は決して二度と來ぬ、若き日に胸の扉を開くべき鍵を忘れたならば、永久に悔へど甲斐なき淵に沈まねばならぬ、そこで先づ自己の胸の厨子に聖き愛の灯を捧げるなら、玲瓏として澄み切つた光が四邊を一面に照すであらう。自らを燃やした愛の火は必ずや自己の接するものを等しく燃やさねば止まぬであらう、一步步正しき愛より正しき愛へと進んで止まぬ、それが女性のふむべき道ではなからうか。

常磐文藝
私の川柳
ノートから
新妻新坊

黙つてる方を臭いに決めておき
俵給日女房は肉を買つておき
肉鍋にするに禁酒はつまらない
女房の鬚をほめてる屠蘇機嫌
賛成をせぬ氣どうでもいと云ひ
正直にして貧乏に馴れてゐる
議論家にして同僚と相容れず
明敏な頭脳で危険視されてゐる
追立てるやうに亭主を働かせ
代議士となつて祖先を辱かじめ

今冬の流行品が
「澤山揃ひました」
「實用的で經濟的」
「ガクセイも服」
澤山揃ひました

一年生用 四三〇〇
二年生用 四四〇〇
三年生用 四四〇〇
四年生用 四四〇〇
五年生用 四四〇〇
六年生用 四四〇〇
警城中(電二〇三番)より
ななかや洋服店

急電
電話
賣り渡し
たし
姓名在社

建築ペンキ塗
美術諸看板
硝子金銀文字
其他各種
大音堂
平町四丁目

家賃

櫻町	拾圓
住宅向	二十五圓
商店向	拾二圓
仲間町	拾二圓
商店向	拾二圓
住宅向	八圓

平町白銀町
加藤營業所
電話三三三番
五丁目 地所付買家
貸地
舊城跡、本丸、二ノ丸

是非
粹で上品な履物を
御求めの際は
三井履物店
平町三丁目 電話一五六番

本邦映畫壇上の天光彩
善映畫 **るつぼの中に** 全十二巻
日支親
善映畫

彰義隊 寮の根岸 卷全
萬野山 石童丸 卷全
哀話 琵琶彈奏 大原錦陵
實寫 造船業 卷全
五月信子 入社第一回作品 高橋木傳
近日撮影開始す

帝キネ 直營 **有聲座**
電話四四六番

牙科平町 森合牙科医院

東京海上火災保險株式會社平代理店
富國徵兵保險相互會社平事務取扱所

店主 久野 柳 助
久野製果販賣部
福島縣平町一丁目
電話 一五〇番
工場 平町長橋町六十一番地

東邦民衆保險
火災 東邦民衆保險
保費は極く僅かのもので有ます
ハガキか電話で御申込み下さい
特に御便利に御契約引受致します

代理店 磐城野 草
三源 野
日丁四町平
番七五一話電

株式買中値
電話に金融致します

磐城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一五	一〇五
磐城實業	五〇〇	四二〇
磐城實新	三〇〇	二八〇
田村實業	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二五〇
同 新	一五〇	一九〇
同 新	五〇〇	五五〇
同 新	一一五	一六〇
同 新	一一五	九八
同 新	五〇〇	四三〇
同 新	二五〇	一九五
只見川電	一一五	七五
植田水電	一一五	一五五
好間水電	一一五	一三〇
磐城建物	一一五	六〇〇
磐城製菓	二〇〇	二五〇
平信託	五〇〇	二五〇
磐城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製水	二五〇	一八〇
好間軌道	五〇〇	三〇〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	一〇〇
磐城炭礦	五〇〇	四一〇
同 新	二二五	一八〇
磐城セメン	五〇〇	六五〇
同 新	三三〇	四四〇
平運送	一一五	八〇

平町田町 電話三三三番
丸登式株店
川添房二郎

今曉肺病む青年が 酌婦と情死を圖る

猫イラズを多量に飲む 兩名共に生命危篤

平町南町飲食店都亭にて同亭抱酌婦宇都宮おれ置杉繁子(九)は今朝午前二時頃馴染客なる山形縣東村山郡相模村大字根際武田惣次郎の伴武田貞吉(三)と猫イラズを嚙下し心中を圖つて死に切れず醫師の應急手當を受けたが生命危篤にて平署飯島部長検視した

耐え兼ねて

男は戶外へ

貞吉は元東京鐵道郵便係員を勤務し昨年十二月平町に來たり繁子を知り合へとなりしものであるが其後肺を病み本年三月前記係員を職首され肩書地に歸郷したが繁子を思ひ出す儘數回

平町に

ろとなり遂には夫婦約束を契りしも病弱の身の到底永らへる命にあらざるを知り情死を決心し十九日來平町亭にて繁子と心中の手筈を定め其夜はそ知らぬ體にて豪遊を爲し廿日午前九時住吉屋支店に投宿午後九時頃再び都亭に登樓して兩名は深夜

忍かに

遺書を認め猫イラズを嚙下し苦悶し初め貞吉は居たたまれず血に染つた女一人を残して其場を逃げ出し平町前増子巡査

認めた遺書

兩名の遺書は貞吉と繁子の名連らねて父母及び抱主に宛てた二通であるが兩親に宛てたるは拙ないペンの走り書きにて

拙なき琵琶歌

御免下さい、御兩親様、先達不幸は御詫致します御許下さい、死んだら繁子は御前の妻である、武田は御前の夫である、一言云ふて葬て喜ばせて下さい、暮れ、我等二人の不孝は何卒御許し下され度、話は澤山ありますが涙の陣ですから此れで最後の御別を致します(原文の儘) 十一月二十夜九時 武田貞吉 繁子

青年團講演

傍聽席壽司詰

平町青年團主催前水戸中學校長代議士菊地謙次郎氏の

講演會は本日午後一時から郡議事堂にて開會青年團を始め警中警女の各生徒傍聽席を埋め仲々の盛會であつたと

犯行の大仕掛けな 高等賭博が開帳さる

平署が近く英斷を揮ふ

平署の犯罪統計に現はれた處に依ると一時つゞき減つた賭博事件は再び増加の傾向を示し犯罪方法も又頗る巧妙を極め容易に現行犯は探知に苦しむのみならず犯行が益々大仕掛となり地方にても相當地位ある者が加はり高等賭博が開帳される有様で犯罪者が有力者である關係上や、もすれば情實に囚はれる傾向があるの

入營送別會

御詔書を奉宣

既報平町に於ける本年度入營兵送別會は本日午前十一時から縣社子鐵倉神社頭に於て開催されたが是れに先立ち午前十時時から國民作興御詔書奉宣儀式舉行され山部神官神詞を奏上して伊坂町長玉串を奉呈終つて送別會に移り神詞の奏上あり伊坂町長を始め尙武會長代理遠藤上席郡書記、山

平陽實科の コート開き

小學生の競技



家庭欄

紅茶、コーヒー 紅茶やコーヒーを主人からすゝめられまじたらば、茶碗を自分の近くに兩手にて

各炭礦に變災相次ぐ

經營者は少からぬ脅威 設備の改善を要す

石城郡の炭礦界に取つて今年は厄年と見えて二月以來各炭礦で變災相次ぎ經營者は少からぬ脅威を受けて居る、先づ二月の湯本町入山炭礦第五坑内の坑内火災で十二名の慘死者を出し八月には同炭礦の瓦斯爆發で一時に七十五名の犠牲を生じ兩陛下から御下賜金あり去月中には好間村古河炭礦堅坑の大出水休山の己むなきに至り其の石炭の埋藏量に於て將來を囑望された同炭礦も大打撃を受け村民の蒙

屋上制限

其他豫防宣傳

平署にては漸く寒さが増して火災の多い季節になつて來たので火災豫防宣傳取締

醬油同業組合 石城郡の醬油同業組合者は廿一日午後四時から住吉屋本店にて總會を開き役員の改選其他協議を爲す由

不平受付

運動上の施設

平町に對しては山崎與三郎氏から運動機設備の爲め其資金の寄附があつた事を餘程以前の新聞で讀んで居ましたが未だ町としては何等運動上の施設を爲さぬのは甚だ無責任ではないか (スポウ生)

伏見助役の答

機具を設備するにしても適當な場所を必要とするので種々調査中であつたのです。が公園の一隅にテニスコートが欲しいとの説もあつたので是れも調べて居ります

熊野蘭品評

石城郡錦村縣熊野神社農會蘭品評會は廿四日開催と決定したが是れが審査の爲め堀内技手郡衛から廿日出張した因に出品點數は百四十二點である

平町人事

出生 △下川原 菊地勝雄氏長男男児 △田町 高木宇平氏二男男児 △南町 高橋山三郎氏長男男児 △北町 草野金次郎氏長男男児

常磐片々

鐵道線路が凍つて破損、まさか綿人も着せられないからこれも不可抗力かネ

舌濁を蒙つたのが因で代議士にコギ着けた菊地前水戸中學校長今日平町で獅子吼、人間は何が幸ひになるか解らぬ、是れか浮世の浮世たる所以か

猫イラズで情死を圖つた肺病青年、生れが子の年有力家の賭博開張を平署嚴戒、是れも前ブレ丈か